

## 念願の同窓会設立される

### 東北大学歯学部同窓会 設立総会報告

東北大学歯学部同窓会設立総会は、昨年11月23日(日)午後1時より、東北大学歯学部第3講義室に於て開かれた。

開会の挨拶……松田 耕策 (3回生)

議長その他選出

議長……井上 博之 (1回生)

副議長……細谷 仁憲 (2回生)

書記……依田 正信 (3回生)

佐藤 義隆 (4回生)

議事

議長により以下の議事次第の確認がされた。

#### 議事次第

##### 1 同窓会設立の件

2 同窓会会則の件

3 役員選出の件

4 事業方針

#### 議事要録

##### 第1号議案…同窓会設立の件

この件に関して、これまで準備を進めて来た東北大学歯学部同窓会設立準備委員会(以下準備委員会と称す)の代表として1回生の入野誠委員より、経過報告および設立の意義が説明された。議案の要約は以下の通りである。

##### 1 設立総会に至る経過

1975年3月26日 同窓会設立準備のための第1回話し合い。各同級会の意向をまとめることなどを確認。

6月25日 各同級会の意向としては、同窓会設立に関して特別の反対はなく、全体として賛成であることを確認し、下記の11名が委員となり、準備委員会を発足。

1回生(46年卒)…入野 誠, 渡辺 誠

井上博之,

2回生(47年卒)…安藤 正明, 細谷 仁憲

3回生(48年卒)…松田 耕策, 依田 正信

4回生(49年卒)…新里 正武, 佐藤 義隆



5 回生 (50年卒) … 小山田栄二

福岡康裕

会則案起草小委員会、広報小委員会を発足させ実務を開始。

7月21日 会則小委で同窓会会則原案を作成、広報小委は全卒業生に葉書により、同窓会設立についての意見を問う。

9月1日 委員に中条幸一(1回生)を追加。  
前記葉書の回収状況

- 1 回生 36名中 27名回収
- 2 回生 42名中 20名回収
- 3 回生 40名中 27名回収
- 4 回生 36名中 15名回収
- 5 回生 28名中 18名回収

これらに、積極的な意見が寄せられ、反対もなかったため、準備委員会としては、11月23日を設立総会と設定し、準備を促進することにした。

9月17日 会則原案を審議し、全会員対象者に配布する会則案を決定した。総会案内状を全卒業生に発送するほか、学内各層にも配布することにした。

10月1日 役員候補の選出について討議し、理事の定数、役割分担を検討した。評議員の定数は各卒業期より2名程度、地方支部から出せば各1名とする。また学部長の処遇と関連して、名誉会長をおくかどうかについて討論した。

10月15日 学部長の処遇について準備委員会としては、会則には明文化しないが、「顧問」をおけるようにし、当面学部長に依頼することにした。また会長候補を全委員一致で決定し、

副会長、理事候補は会長候補が決め、準備委員の確認を得ることにした。

11月5日 総会議案書の作成、会場設営など総会準備の細部について論議し決定した。また役員候補を決定した。

11月11日 設立総会の議案について討議。

11月20日 教授会から“参与”を出してもらうことになり、会則にも入れることにした。

## 2 同窓会設立の意義

東北大学歯学部で共に過した仲間同志のつながりを大切に、今後とも親睦を続けていけるよう、組織的保障を与えるものであり、決してそれ以上のものでない。

すでに北海道から沖縄まで全国に仲間が散らばっている現状で、徐々に交流も困難となりつつあり、何となくなつかしさを感じるようになって来た。また開業した仲間からは大学に残った仲間と学術的な交流をもちたいとの希望も出されている。同窓会はまずそういったものに応えるものでありたい。

この会が豊かな内容をもって発展することができるかどうかは、何よりも会員の皆さん相互の今後の努力にかかっている。皆で素晴らしい同窓会をつくりあげようではありませんか。

以上の提案について以下のような討議が行われた。

- (1) 地方支部については東京ができていらいしい。また北海道にもその動きがある。
- (2) 参与に関して。学部長と話し合い、会費徴収、学術的交渉、大学事務系の利用など

大学側からの参加があった方が、運営が円滑に行くだろうということで、最終的に参与として入ってもらうことになったことが準備委員会の渡辺委員から説明があった。

- (3) 同窓会設立に関する意見が、各卒業期の方々から出され、それぞれ同級会などの様子では皆賛成であることが報告された。
- (4) その他、大学を離れ、開業したり、病院に勤務している方々から、同窓会のあり方として、親睦ばかりでなく、学術的な面にも力を入れ、会員相互の利益を考えたものにしていくべきだとの意見も出された。

以上の討議の後、設立に関し、出席できなかった人の意見も入れ、出席者全員の拍手により、東北大学歯学部同窓会の設立が承認された。

## 第2号議案…同窓会会則の件

同窓会会則案が準備委員会（入野）より説明され、以下の訂正がなされた。

会則（案）の一部訂正

- ・第4章役員→第4章役員等
- ・第11条（第4章に追加）本会に以上の役員のほかに参加をおくことができる。

- ・以下第11条を第12条に

第12条を第13条にと順送りに変更

以上の提案について以下の討議が行なわれた。

- (1) 会則の付則に、会の運営に関し融通性をもたせるようなものを加えた方がよいので

はないか、との意見が出され、討議の結果以下のように会則案が修正された。

附則1. 細部にわたる件については、会則の精神にのっとって行なう。

2. この会則は 年 月 日から…

- (2) 第10条の補欠の役員の承認に関して質問があり、討議の結果、第10条は以下のように修正された。

- ・補欠により選任された役員の任期は…を
- ・欠員は、役員会で補充し、その役員の任期は…に修正

- (3) 賛助会員はどのように決めるのか、との質問があり、準備委員会から、現在および過去の教職員を含める意味でこの様になったのであり、本人が希望して会費を納入すれば、賛助会員となる、との説明があった。以上の討議の後、全員の拍手で会則案を承認し、附則2の年月日を、50年11月23日として、会則が決定した。

## 第3号議案…役員選出の件

議長より、準備委員会で決めた会長候補を発表させてよいかとの発言があり、全員が拍手でこれを承認し、準備委員会（入野）より会長候補、監事候補の推薦、紹介がされた。

会長候補…渡辺 誠（1回生）

監事候補…伊藤 秀美（1回生）

齊藤 利夫（3回生）

以上の各候補は、全員の拍手で承認された。

次に会長より、副会長と理事候補が以下のよう  
に推薦された。

副会長候補…中条 幸一（1回生）

細谷 仁憲（2回生）

理事候補

会計…安藤 正明（2回生）

依田 正信（3回生）

庶務…入野 誠（1回生）

松田 耕策（3回生）

広報…井上 博之（1回生）

小山田栄二（5回生）

学術…杉本 忠秋（2回生）

阿部 良一（4回生）

以上の各候補は、全員の拍手で承認された。

次に評議員候補が、各卒業期の代表から、以  
下のように推薦された。

1回生…糠塚 重徳 田中 広一

2回生…馬場 修一 越後 成志

3回生…村井 政幸 白戸 勝芳

4回生…新里 正武 岩谷 真一

5回生…原田 孝久 福岡 康裕

以上の各候補は、全員の拍手で承認された。

なお会長より、地方支部の評議員に関しては、  
今後各地方と相談していくが、承認については  
今回は役員会に一認してほしいとの発言があり  
承認された。

#### 第4号議案…事業方針について

渡辺会長より、事業方針について以下のような  
提案、説明がされた。

東北大学歯学部創立10年目を数え、卒業生も

約200名と、日本各地で活躍するに至りました。

また母校歯学部も創設期から充実期へと一歩  
を踏み入れ、増々卒業生の協力と親睦が必要と  
される時期となって来たわけです。

この様な時に、第1回生から第5回生の卒業  
後のクラス会、各地区の支部会より同窓会設立  
の気運がたかまり、“昭和50年3月26日第1回  
東北大学歯学部同窓会設立準備委員会”がもた  
れ、以後十数回の会合を経て、今日昭和50年11  
月23日(日)東北大学歯学部同窓会設立総会が開催  
されるに至ったわけです。

第一次同窓会執行部は上述したことをふまえ  
卒業生の親睦と協力を十分はたされる様、任期  
中次の事業をおこなっていくことを決定いたし  
ました。

#### 第一次東北大学歯学部同窓会 執行部事業方針

(1) 会員相互の親睦をはかるため、同窓会の確  
立と充実

会員名簿および年一回の会報の発行

(2) 会員間の学術交流

“変革期の歯科医療”

今期のテーマ「小児」

(3) 歯科教育への提言

(4) 新同窓会員への歓迎行事

以上の事業方針案に関して、学術担当理事

(杉本)から、自分としては、大学内と大学外  
の臨床の違いを、経済的な面も含めてやってい  
きたいと思う、との発言があった。また会長か  
ら、何ごとも初めてで大変であるが、理事、評

議員の間で協力してやっていきたいとの発言があった。

全員の拍手により、役員の方々の今後の努力と、会員の協力で、この事業方針を実行していくことが承認された。

以上で、議事はすべて終了し、議長の発言により、準備委員会は11月23日をもって解散し、各会員に経過を報告することが確認された。

最後に、会長より、参与として学部長より、佐伯教授が推薦されたので、同教授を参与としたいとの発言があり、承認された。

閉会の挨拶…松田 耕策

## 東北大学歯学部同窓会会則

### 第1章 総 則

第1条 本会は東北大学歯学部同窓会と称する。

第2条 本会は本部を東北大学歯学部内におく。

第3条 本会は支部を設けることができる。

### 第2章 目的および事業

第4条 本会は会員相互の親睦をはかることを目的とする。

第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。

1. 会員名簿および会報の発行
2. 講演会、その他の会合
3. その他本会の目的、達成に必要な事項

### 第3章 会 員

第6条 本会は次の会員をもって構成する。

1. 正 会 員 東北大学歯学部ならびに歯学研究科の出身者

2. 賛助会員 東北大学歯学部、同附属病院の教職員ならびにその他これらと関係のある者

### 第4章 役 員 等

第7条 本会に次の役員をおく

会 長 1 名      評議員 若干名  
副会長 2 名      監 事 2 名  
理 事 若干名

- 第8条
1. 会長および監事は、役員会において会員中より選出し、総会の承認を得る。
  2. 副会長および理事は、会長が推薦し、総会の承認を得る。
  3. 評議員は、各卒業期および各支部の会員の中より選出し、総会の承認を得る。

- 第9条
1. 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
  2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。
  3. 理事は会務を分掌する。
  4. 評議員は役員会に列し、諸般の会務を審議する。
  5. 監事は会務および会計を監査する。

第10条 役員は任期は2カ年とし、再任を妨げない。

欠員は役員会で補充し、その役員は任期は前任者の残任期間とする。

第11条 本会に以上の役員のほかに参加をおくことができる。

## 第5章 会 計

第12条 本会の会費は年額 3,000 円とする。

第13条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

第14条 予算および決算については、総会の承認を得なければならない。

## 第6章 会 議

第15条 定期総会、臨時総会および役員会は会長がこれを招集する。

第16条 定期総会は毎年春に開き、その年度における事業および予算を決定し、前年度の決算を承認する。

第17条 臨時総会は必要なときに開くことができる。

第18条 役員会は役員の過半数の出席をもって成立する。

第19条 会議の議事は出席者の過半数をもって決する。

## 第7章 会則の変更

第20条 本会則は総会の議決によらなければ変更できない。

附則 1. 細部にわたる件については、会則の精神にのっとり行なう。

2. この会則は50年11月23日から施行する。

## 会長就任あいさつ

渡 辺 誠

東北大学に歯学部が創設されて、12年目を迎えようとしている。この間、約 200 名の卒業生が沖縄から北海道で活躍している。そのような中で、同窓会設立の声が叫ばれたのは自然の成りゆきである。同期に設立された他大学歯学部が遅れをとりながらも、ようやく50年11月設立の運びとなった。

同窓会の設立あるいは存在意義を考えると頭痛がするほど難しい問題が会の性格としてあるように思われる。真に、東北大学歯学部の同窓会設立が遅れたのもこの点にある。同窓会を任される一人として、改めて同窓会の意味、運営等をいかにするかを考えると困惑せざるおう得ない。複雑多岐に渡るこの会を盛況にし、有意義なものにするため微力をつくすつもりですが会の光明を探りあてるには、諸先輩の助言と御指導がなければなりません。会の発展のため多くの意見を期待します。

最後に、会の設立にあたり多大なる御尽力をつくされた歯学部教授会、事務の方々に深く感謝し、今後ともなお一層の御支援、御援助のほどをお願いする次第です。

昭和51年 1 月

## 東北大学歯学部同窓会 の発展を祈念して

山本 肇

杜の都仙台に、東北大学歯学部が創設されてはや10周年、この春には、第6回生が、この学窓をまさに巣立とうとし、卒業生の数も年々歳歳ふえてきている。昨、昭和50年11月23日、歯学部と同窓会が設立されたことは、機まさに熟したと云うべきで、真に同慶の至りである。

ひとは、それぞれ、その家郷をもっている。そして長じて、遠く家郷を離れても、ときに郷愁が、その心をよぎるのを禁じ得ない。同窓会とは、あるいは同窓生にとって新なる第2の家郷とも云えるのではなかろうか。

それは、あるときは互に学びの昔を顧み、ふるい誼みを温める場となり、またあるときは、窓の友とともに、誠を語り合い、未来の運命を祈念する場ともなるからである。

しかし私は同時に、この同窓会が、大学と同窓生との間のコミュニケーションの場となり、互によりよい歯学の未来を築きあげて行く、そんな形を保障して行く場にもなってほしいと思っている。

東北大学歯学部同窓会、まだ会員数も小さくさやかなものである。それはやとつばみをもった梅の一枝にも例えられるであろう。しかし私は、それがやがて綻び初めて、咲き匂うことを期し、ともに努力して行きたいと念じている。

寒林に梅となる日の待たれける 思水

同窓会の弥栄を祈念して止まない。

昭和51年新春

佐伯 政友

東北大学歯学部はすでに創設揺籃の時期もすぎ、この春で卒業生の回を重ねること6度となる。

仄聞するところによれば、卒業生有志諸君の尽力にて東北大学歯学部同窓会が設立され、ここに同窓会会員名簿が発刊されようとする気運があるという。

東北の地に歯学の礎石たらんとしてはや10年歳月を経由せんとするときにあたり、同窓の絆を一層強くかためんとするこの企は誠に喜ばしいかぎりである。

同学有縁の士、この快挙を契機として東北の地から歯学の法燈をとわに高くかかげられんことを切に願うものである。

昭和51年1月28日

## 同窓会設立によせて

1回生 谷津 利夫

東北大学歯学部同窓会が設立され、本当に喜ばしく思われます。

我々1回生が入学した時は、先輩が居ない為か、何となく寂しい感じもしたのですが、これからは仙台を離れる卒業生も、その点、心の支柱を持ち乍ら安心して新しい地域に向かえるので

はないでしょうか。

現在、東京地方で活躍している卒業生も約30名程になり、この度「お互の親睦を図り乍ら、歯科医学の発展に尽力しよう。」との主旨の下に、同窓会関東支部が結成されました。幸いにも東京には、元歯学部医局員であった先生方が多数おられ、その方々にも会員になって頂く予定ですので、大学を離れた我々卒業生には心強い限りです。卒業して、一般の診療所に勤務してしまうと、大学とは音信不通になることが多々あるようですが、これからはそのようなことがないように、接触を保ちつつ、日常の医療活動に携さわっていきたくと思っています。

## 同窓会発足に寄せて

2回生 森 信之

今春で東北大学歯学部も、6回生の卒業生を迎えようとしています。本当に月日がたつのは早いものだと痛感させられる今日です。

遅すぎたともいえる同窓会の発足は、一同窓生として喜びにたえない心境であります。

現在、各地で活躍されている同窓生諸氏も同じ心境であろうと思います。

さて、この度の同窓会の発足に際して私なりの希望、感想をのべてみたいと思います。私も含めて開業している同窓生、また勤務している同窓生が大学を離れて一番さみしく感じることはやはり大学とのつながりがなかなか持てないということです。特に大学をいったん離れると、

本を読んだり、discussionしたりする機会がないものであります。そのchance makerとしての同窓会の存在を希望したのであります。例えば母校主催の講習会、研修会etc、まあこれはあくまで希望であって、発足したばかりの現在においては、会の運営自体時々困難なものがあると思います。じっくり腰を据えて対処せねばならない時期であろうと思います。

役員の方皆さんのご健闘をお祈り致します。

## 同窓会結成を喜ぶ

3回生 直江 勉

この度、待望の我校同窓会が結成されましたことは、とても喜ばしいことと思います。結成に当たり御尽力下されました発起人の方々に、御礼申し上げます。

昭和46年に第一回の卒業生を社会に送り出して以来5年の年月が経ったわけです。各学年ごとにおけるクラス会は盛んなようですが、各地域単位の集まりというものは、まだ札幌にはありません。こちらでは、当地での学会の時、あるいは学生時代の恩師、友人などがこちらへ赴いた場合などに、皆で集って楽しいひとときを送っているわけですが、「同窓会」というものができると、このような際にもスムーズに行なわれるのではないかと思います。

北海道でも一度結成の動きはあったのですが一応見合わせることになってしまい、全体としての「同窓会」が結成されましたことは、札幌

あるいは北海道の支部を結成するうえでも心強いものがあります。同窓の方々が当地へ赴かれるような際には、皆で歓迎したいと思っております。

最後に同窓生のますますの御発展、御活躍をお祈りいたします。

## 歯学部同窓会の設立を祝う

4 回生 新里 正武

第1回生を中心に、同窓会設立の運動が提起され、各卒業生の代表が集って数回の討論会議がもたれ、この度設立になったことをうれしく思う。この“会”をどのような形に発展させて行くかは我々会員の一人一人が考えていくべきものであり、“会”の設立までのいきさつからして、上から強制されずに、自発的に作り上げていったことを思うと、そのことに関しては、十分に期待できるものである。同窓会を単なる“親睦団体（それ自身は重要ではあるが）”として位置付けてはいけないと思う。そのことに関しては特に執行部（＝役員）の皆さんが十分に認識して欲しい。“東北大歯学部同窓会ここに有り！”といった雰囲気ユニークな同窓会にしたいものである。

同窓会の設立を祝い、会の発展を期待する。

## 意義ある同窓会に

5 回生 福岡 康裕

卒業後まもない頃、同窓会設立の準備委員の一人に選ばれ、その時これは大変なものに選ばれたものだという悲愴感を持つと同時に同窓会と言う言葉に対して何かびんとくるものの無い私でありました。何度か話し合いが行なわれるにつれて同窓会のもつ意義がわかってきました。総会の当日、出席者が思いのほか少なく幾分残念ではありましたが、その時ふと五年後あるいは十年後にはきっとこの会場も多くの人で埋まることであろう。そしてこの私も東北新幹線に乗って悪友に会いに来るのではないだろうかと思ったのです。5回生が世に送り出され、また定員増および新講座が認可されようとしている現在、歯学部は真に飛躍の時代を迎えようとしております。こうした時期に設立された同窓会是非とも意味あるものにしていきたいと思う次第です。

## 役員紹介

会長

渡辺 誠氏（1回生）

医学部の大学院を終え、現在、第二生理学教室の助手。初代学生会委員長に、今度は初代同窓会会長として頑張っていたくことになりました。

副会長

中条幸一氏（1回生）

保存学第1教室の重鎮として活躍中。男の子と女の子の2児の良きパパでもあります。副会長としての活躍を期待しています。

細谷仁憲氏（2回生）

補綴物の出来にはますます喜びがきがかかってきました。学生会で頑張っていた頃の活躍ぶりを今一度期待します。

理事（会計担当）

安藤正明氏（2回生）

補綴学第1教室で頑張っています。ご存知その落ち着きぶりからも会計には、こういう人がならなければというところでしょう。

依田正信氏（3回生）

安藤氏と同じ第1補綴に所属。この2人の名コンビで同窓会財政はますます安泰です。頼りになる奴です。

理事（庶務担当）

入野 誠氏（1回生）

現在、附属技工士学校講師。自慢のヒゲは昨年夏にバツサリそり落して、それ以後学生の入野先生に対する評価が変わったとか。

松田耕策氏（3回生）

口腔病理学教室に3年。押しも押されぬ第一線の研究者として、腹の具合も適当で、貫禄充分です。

理事（広報担当）

井上博之氏（1回生）

今だに童顔、言も柔和、しかし理事中のハリキリボーイ、予防歯科でも活躍中。

広報担当で頑張ってもらいます。

小山田栄二氏（5回生）

真面目なようでいて、適度にそうでないところもあるいい男です。第1補綴の新進気鋭の医員として目下猛勉強中。

理事（学術担当）

杉本忠秋氏（2回生）

理事の中で唯一の開業医。仙台のド真中国分町に居すわって3年。学も術もいよいよアブラがのってきた感じで学術担当にふさわしい。

阿部良一氏（4回生）

補綴学第2教室の中で一番新米な助手で目下奮闘中。“良ちゃん”の学術担当期待しています。

監事 お目付役には適任の二氏です。

伊藤秀美氏（1回生）

補綴学第2教室

斉藤利夫氏（3回生）

口腔外科学教室。

評議員 各回生の代表として頑張ってください。

1回生 糠塚重徳氏 矯正学教室

田中広一氏 口腔外科学教室

2回生 馬場修一氏 磐城共立病院歯科

越後成志氏 口腔外科学教室

3回生 村井政幸氏 保存学第2教室

白戸勝芳氏 予防歯科学教室

4回生 新里正武氏 小児診療室

岩谷真一氏 保存学第2教室

5回生 原田孝久氏 補綴学第2教室

福岡康裕氏 保存学第1教室

参与 同窓生と各教授はじめ職員の方々との  
パイプ役です。

佐伯友友氏 口腔解剖学第一講座教授

## トピックス

◎ この度、3月31日付をもって口腔診断学教授、元病院長の村井竹雄先生が停年退官されることになりました。

### 経 歴

村井 竹雄

現住所

本 籍

略 歴

東京高等歯科医学校卒

昭和9年歯免

東京帝国大学医学部放射線医学教室専攻生

昭和12年

医学博士 昭和20年

東京医学歯学専門学校医学科卒

昭和24年医師免

東京医科歯科大学教授歯学部 昭和34年

東京医科歯科大学歯学部附属病院長併任

昭和41年

東北大学教授歯学部に配置換 昭和42年

” 附属病院長

昭和42-46年

現在に至る

日本歯科放射線学会評議員理事

昭和35年より現在

日本歯科放射線学会会長 { 昭和37-39年  
昭和46年

日本医学放射線学会評議員 昭和36-44年

放射線取扱主任者免許状 昭和35年

放射線専門医 (日本医放学会認定)

昭和45年

<村井教授退官記念事業について>

1 最終講義 2月14日(土)午後1時~3時

「歯胚に対する放射線の作用」

2 記念パーティ 3月27日(土)3時~6時

仙台ホテル2階瑠璃の間

会費 10,000円

詳細については、口腔診断学教室の山田先生  
までお問い合わせ下さい。

◎ 歯学部の学生定員が51年度から80名になります。これにともない、4月から小児歯科学講座が開設される見通しです。

◎ 昨年12月1日付で山本肇教授が学部長に就任されました。任期は2年です。

## 卒業生諸兄へ

元口腔外科学教授  
現山形大学医学部教授  
前田 栄一

今回、東北大学歯学部同窓会が結成されるに  
いたったことは誠に喜ばしく心からお祝い申し上げたい。

卒業生の数は今でこそ200名足らずにすぎないが、学部の創設以来の11年の経過と今春の第6期生の卒業など、しかもこれからさき永久に年々輩出する後輩同窓のことを考えると、同窓会誕生の意義は大きく、時宜を得たものと考えられる。

一般に、国立大では母校と卒業生との繋がりは、私立大のそれに比べて、弱いように感ぜられる。それは大学側が餘り構わないことにもよろうが、卒業後の母校への関心のうすくなるこ

ともよると考える。

同窓会は、今後、同窓生相互の連絡と親睦を密にする上で、“扇の要”として大きな役割を果たすことになろうが、同時に母校と卒業生との間に在って、研修会開催などを通じて関連をふかめることに努力されんことを期待する。

卒業生の諸兄は、東北大出身者としての自負と責任の下に、日々研鑽されていることと存するが、一層の自愛と精進を祈ってやまない。

---

会報の題字は小倉保己前学部長にお願いしました。